

スポーツリハビリテーション概論		講義	教授 川崎 一郎
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12351201

1. 授業のねらい・概要

スポーツ外傷・障害からの復帰に際して、医療機関等で行われるメディカルリハビリテーションに加えて、フィールドにおけるアスレティックリハビリテーションが必要となる。アスレティックリハビリテーションは、スポーツ外傷・障害が起こってから、スポーツ活動時に要求される運動能力を解剖機能系、呼吸器系、筋骨格系および代謝系を含めて元の競技スポーツに耐え得るだけのレベル以上に戻すとともに、さらには再発を予防する事を目的としている。実際のスポーツ現場では、様々な背景を有する競技選手（育成期から成人まで）を対象とするため、幅広い運動生理学的な基礎知識（呼吸循環器系、筋骨格系、代謝系、成長期の生理学的特徴）が必要となるとともに、スポーツリハビリテーションに従事する者の役割に対する理解も必要になる。この講義ではスポーツリハビリテーションの基本的な知識を上記の観点から理解し、スポーツリハビリテーションのスキルの基盤作りを体系的に行うとともに、スポーツ現場に生かすため知識を理解していく。

2. 授業の進め方

主に Power Point を用いたスライドおよび板書による講義形式で授業を行う。

3. 授業計画

1. スポーツリハビリテーション従事者の役割	9. スポーツリハビリテーションの実際の流れ
2. スポーツ外傷・障害の予防	10. 運動療法の基礎（関節可動域回復）
3. アスレティックリハビリテーションの定義	11. 運動療法の基礎（筋力回復）
4. メディカルリハビリテーションの概要	12. 運動療法の基礎（呼吸循環器系・代謝系）
5. アスレティックリハビリテーションの概要	13. 運動療法の基礎（神経筋協調性回復）
6. 重症外傷と救急処置	14. 物理療法の基礎（温熱療法・冷却療法）
7. コンディショニング	15. スポーツリハビリテーションのシミュレーション
8. 測定と評価	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、配布プリントやノートを使って復習しておくこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

柔道整復師およびトレーナーとしてスポーツ現場において実施するスポーツリハビリテーションに必要な最低限の知識および方法論の習得に努め、今後の授業である「スポーツ傷害」「スポーツリハビリテーション」へとつなげる。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（15%）小テスト（15%）定期試験の結果（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

必要に応じて資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用、飲食、帽子の着用は認めない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は接骨院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。